

# もなみっこ

北海道札幌伏見支援学校もなみ学園分校 学校だより

令和8年3月4日 発行 第4号

## ウェルビーイングは自己選択・自己決定から

校長 佐古 勝利

今年度も、子どもたちは日々の学習や学校行事、友人との関わりの中で多くの経験を重ね、大きく成長しました。4月当初は、新しい環境に緊張した様子も見られましたが、次第に自分の居場所を見つけ、学校生活に安心して向き合う姿が増えていきました。今では、自信に満ちた表情や生き生きとした活動の様子から、一人一人の確かな歩みを感じています。

小学部の運動会では、仲間と力を合わせる喜びや最後までやり抜く大切さを学びました。勝ち負けだけではなく、挑戦することそのものに価値があることを、子どもたちは体いっばいに表現してくれました。今年度から開催日を分けて実施した小・中学部の学習発表会や高等部の製品販売会では、人前で発表する勇気や仲間と協力して時間をかけて一つのものをつくり上げる達成感を味わうことができました。また、見学旅行や宿泊学習では、初めての場所や人との出会いをとおして世界を広げ、「楽しかった」「また行きたい」という経験を重ねる貴重な機会となりました。

本校が大切にしていることの一つに、「子ども自身が選び、決める経験を増やす」ことがあります。例えば、「どちらを選ぶ?」「何から始める?」といった小さな場面でも、自分の意思を示すことは主体性を育てる第一歩です。子どもの実態に応じて写真や絵カードを活用するなど、一人一人に分かりやすい方法を工夫しながら、子どもたちが安心して選択・決定できる環境づくりに努めています。こうした自分の意思で決めることこそがウェルビーイングにつながっていきます。

そして、子どもが自分で決めたことが良い結果につながるよう支え、「自分でできた」「やってよかった」と感じられるよう励ますことも大切にしています。こうした日常の小さな成功体験は、やがて大きな自信となり、次の挑戦へと向かう力になります。失敗や悔しさもまた、挑戦したからこそ得られる大切な学びです。前を向いてもう一度、次はこうやって取り組むといった一手を打とうする姿に、私たち教職員も多くの勇気をもらっています。

「好きこそものの上手なれ」という言葉があります。子どもたちが「これが好き」「もっとやってみたい」と思えることに出会ったとき、そこには大きな成長の可能性が広がります。私たちは、その中でひととき輝く得意なことや強みを見つけ、それが将来の自立や社会参加につながるよう丁寧に支援していきたいと考えています。

子どもたちが安心して挑戦し、成長することができたのは、保護者の皆様、そして地域の皆様の温かいご理解とご協力のおかげです。日々の見守りや励ましに、心より感謝申し上げます。学校は家庭や地域とともに子どもを育てる場所です。これからも連携を大切にしながら、一人一人の可能性を引き出してまいります。

来年度も、子どもたちが自分の力を信じ、夢に向かって一歩ずつ前に進めるよう、教職員一同全力で支援してまいります。子どもたちの歩みはそれぞれ異なりますが、その一歩一歩にはかけがえのない価値があります。これからも子どもたちが自分らしく輝きながら未来へ進んでいけるよう、本校の教育をさらに充実させてまいります。今後とも変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 高等部の1年間

高等部 主事 稲井 和代

- 4月 入学式。新入生10名を迎え令和7年度の高等部がスタートしました。
- 5月 見学旅行(3年生)。2泊3日の東京ディズニーランドの旅は一番の思い出です。
- 6月 校外学習(2年生)。バスと地下鉄とJRを利用して、サッポロオリンピックアボウルに行きました。
- 7月 もなみワークス。5つのグループに分かれ、5日間毎日作業体験をしました。
- 8月 校外学習(3年生)札幌市民防災センターで各災害の疑似体験をすることができました。
- 9月 校外学習(1年生)。2つのグループに分かれて仕事体験とテレビ塔見学をしました。
- 10月 南陵高校との交流学习。南陵生が考案したゲームで盛り上がったグループもありました。
- 11月 学校祭。作業学習で作った製品を販売しました。接客マナーも練習しました。
- 12月 音楽発表会。通常は2グループに分かれて学習していますが、お互い演奏を披露しあいました。
- 1月 まとめの3学期。
- 2月 漢字検定。4名の生徒が挑戦しました。
- 3月 卒業式。8名の卒業生が巣立って行きます。保護者の皆様今までご協力頂きありがとうございました。高等部生の365日は日々の積み重ねの中で確かな成長が感じられる1年です。



よりよい子ども達の学びを目指して

～校内研究のひとつコマ～

研修部 中山 友美

先生達も学び続けながら日々の指導に携わっています。長期休業中や放課後の時間に、外部講師を招いて専門的な知識を学んだり、先生方同士で意見交換しながら子ども達の支援の在り方や工夫について考えたりする研修会など、内容も様々です。子ども達の様子を取り上げながら行った研修会では、先生方が笑顔でその子のよさや頑張りを話す姿が印象的でした。今後も、専門性の向上を図りながら、よりよい教育活動の充実に努めていきます。



給食指導にかかわる研修会



学びの支援にかかわる研修会

# もなみの風

～コーディネーターの仕事の紹介～

特別支援教育コーディネーター 原田 康平

本校で初めての専任特別支援教育コーディネーターを任されて1年が経とうとしております。今年度は直接的あるいは、間接的にほとんど全ての学部、学級に関わらせていただきましたが、皆様にとって本校の「コーディネーターの先生」は顔と名前が一致する存在になっていたでしょうか。また、普段どんな仕事をしているかイメージができる存在だったでしょうか。今回は意外と知られていない身近なコーディネーターの役割について代表的なものをご紹介します。

## 例①「保護者からの依頼を受けたケース会議の運営」

今年度皆様と関わる機会が一番多かったのはケース会議でした。担任の先生や相談室、放課後等デイサービスなど関係する方への連絡や日程調整、当日の司会や記録を行っていました。会議当日に初めて会うスーツ姿の先生が思い浮かべばそれが本校の「コーディネーターの先生」です。

## 例②「関係機関との連携推進」

次に関わらせていただいたのが関係機関の訪問支援の受入や相談室の紹介でした。関係機関による子どもたちへのモニタリングの日程調整や相談室を探す保護者さんへの情報提供など多岐に渡りましたが、南区や豊平区の特別支援に関わる関係機関と子どもや保護者がスムーズに連携できるように仲介いたしました。

どうでしょう。どちらかでも「コーディネーターの先生」に関わったことを覚えていてくれたら嬉しい限りです。

さて、例からも伝わっているかも知れませんが、特別支援教育コーディネーターはどちらかという先生方や保護者、関係機関などを応援し、子どもたちへの指導や支援が効果的に進むよう環境整備を行う裏方といった存在です。本通信を機会に皆様により存在を知っていただき、これまで以上に日々の指導や支援が効果的に行えますように取り組んでいきたいと考えています。ケース会議の依頼や関係機関との連携、各種情報提供などのご要望がございましたら、遠慮無く担任の先生を通じて「コーディネーターの先生」へご相談ください。

## 長期休業中における緊急時の連絡について

もし、事故に遭ったり、病気になったりするなど、緊急なことがあった場合には、下記のQRコードを読み取るか、URLをクリックして連絡してください。三坂教頭にメールが転送されます。

こんなときはご連絡ください

事故に  
遭った

病気にな  
った

行方不明に  
なった



[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScPKexPqn-XVap4HD\\_XMaOW-i-rKIuL6SLsivHLbCt4tu\\_vA/viewform?pli=1](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScPKexPqn-XVap4HD_XMaOW-i-rKIuL6SLsivHLbCt4tu_vA/viewform?pli=1)

もなみ学園分校のホームページを更新しました。

各学部の作品も紹介しています。ぜひ、一度ご覧になってください。

※「もなみ学園分校」で検索するか、もしくはこちらまで。QRコードからも読み取れます。

<http://www.monami.hokkaido-c.ed.jp/>

